

科目名		授業形態	担当教員名	
言語聴覚障害診断学Ⅰ（小児）		講義	平口 昌広	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
言語発達やコミュニケーションに問題を示す子どもたちを理解し、働きかけの指針を得るために、子どもの発達の様子、知的能力やバランス、コミュニケーション能力の段階について個別に評価し、診断することが必要である。よって診断を行うためのフォーマルな評価について修得することを目的とする。				
授業の到達目標				
診断の意義を具体的に述べることができる。 臨床場面において言語聴覚士が主に実施するフォーマルな評価である検査を知り、検査の目的や意義、実施上の留意点を捉え、結果の分析や解釈を行うことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	序論 ・ 診断、評価について説明できる			
2	・ 検査の目的と留意点を説明できる			
3	全体的発達検査 ・ 乳幼児分析的発達検査法（遠城寺式）が理解できる			
4	全体的発達検査 ・ 乳幼児精神発達診断法（津守式） ・ 乳幼児発達スケールKIDSの実践			
5	言語障害児選別検査 ・ ことばのテスト絵本を理解できる			
6	言語発達検査 ・ 絵画語い発達検査 PVT-Rを実施し理解できる			
7	全体的発達検査 ・ 新版K式2001発達検査：検査の目的を理解できる			
8	全体的発達検査 ・ 新版K式2001発達検査：実習			
9	全体的発達検査 ・ 新版K式2001発達検査：実習			
10	全体的発達検査 ・ 新版K式2001発達検査：解釈の仕方について概ね理解できる			
11	知能検査 ・ WISC-IV：検査の目的を理解出来る			
12	知能検査 ・ WISC-IV：実習			
13	知能検査 ・ WISC-IV：実習			
14	知能検査 ・ WISC-IV：解釈の仕方について概ね理解できる			
15	知能検査 ・ WPPSI-III：説明・実習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	100%	診断の意義を理解し、各検査の目的や意義を捉え、実施方法や解釈ができていないか評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版	玉井ふみ・深浦順一		医学書院	
最新言語聴覚学講座 言語発達障害学	石井宏代・石坂郁代 編		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				